

【事例紹介】

富山県の留学生受入・定着に対する取り組み

-アセアン地域等からの外国人留学生受入・定着促進事業-

Welcoming International Students to Toyama Prefecture
Our Efforts to Help Them Get Established:
Projects Promoting the Arrival and Establishment of
International Students from ASEAN Countries

富山県総合政策局国際課主事 前 亜都羽

MAE Azuha

(International Affairs Division, Toyama Prefectural Government)

キーワード：アセアン、グローバル人材、地域活性化と留学生

1 はじめに

2017年末の在留外国人数は、256万1,848人で、前年末に比べ17万9,026人(7.5%)増加となり過去最高となりました。国籍別の対前年末増加率は、ベトナム31.2%、インドネシア16.6%とアセアン地域からの外国人の増加が著しいことがわかります。また、留学生に関しては、2008年に文部科学省が2020年までに30万人の留学生受入れを目指す「留学生30万人計画」を策定し、入管法の改正や在留資格の増設等、国全体の動きとして留学生の受入れ拡大を推進しているところです。

同様に、富山県内在住の外国人数も過去最高となり、なかでもベトナム、フィリピン、インドネシアなどのアセアン地域の外国人が増加しています。近年、経済成長の著しいアセアン地域については、県内企業の進出事業所数が、この10年間で3.3倍に増加するなど、海外ビジネスのパートナーとして注目されており、県内企業のアセアン留学生に対する採用ニーズも高まっています。

2 留学生に関する本県の指標及び現状

2018年5月1日現在、県内の高等教育機関に在籍する外国人留学生数(正規生)は461人です。うち、アセアン地域からの留学生はわずか90人です。

本県の総合戦略である「とやま未来創生戦略2018」の指標として、2019年度までにアセアン留学生受入数の目標値を24人/年、県内外国人留学生の県内就職数の目標値を130人(2015年3月から2019

年3月までの卒業生累計)と設定しています。

また、2018年3月に策定した本県の新総合計画「元気とやま創造計画ーとやま新時代へ 新たな挑戦ー」の指標として、2026年度までに県内高等教育機関に在学する外国人留学生数の目標値を721人/年、アセアン地域からの県内留学生の県内就職数の目標値(2017年度からの累計)を88人と設定しています。アセアン地域からの県内留学生の県内就職数に関する指標は、県内企業がアセアン地域等へ海外進出・展開をする際、人材確保がネックの一つとなっているという背景から、2017年度に新たに設定しました。

富山県内の留学生は、日本語教育機関での増加が著しい一方、高等教育機関ではほぼ横ばいの状態が続いており、県内企業への就職者数も同様に横ばいの状況です。アセアン留学生の受入数については、すでに24人/年の目標値を達成し、2016年、2017年ともに32人/年を受け入れており、アセアン留学生の日本留学への関心の高さが窺えますが、県内企業への就職数は指標策定時の2011年から2017年まで1~3人/年(2017年は本事業の留学生5名を除く。)で推移しており、就職まで繋がっていないのが現状です。

3 アセアン地域等からの外国人留学生受入・定着促進事業について

(1) アセアン地域等からの外国人留学生受入事業ができた背景

県内企業の海外展開、中でもアセアン地域への進出が活発化しており、アセアン留学生の採用ニーズは高いものの、就職に結びついていません。県内高等教育機関の留学生のうち約6割が中国国籍でありアセアン留学生の母数自体が少ないこと、これまでアセアン地域からの留学生を採用してこなかった県内の企業は採用方法がわからないこと、国際的にも国内においても、優秀な外国人材の獲得競争が激化していること等が原因だと考えられます。これらの状況を踏まえ、県内企業から石井知事の元へ留学生の採用支援の要望があり、「アセアン地域等からの留学生受入・定着促進事業」が開始しました。

(2) アセアン地域等からの外国人留学生受入・定着促進事業の概要

富山県では、2015年度からアセアン地域及びインド留学生の採用を希望する県内企業と連携して、留学中の学費や生活費等を支給し卒業後は支援企業への就職を促す「アセアン地域等からの外国人留学生受入・定着促進事業」を実施し、就学から就職までを一体的に支援しています。

①参加企業募集

例年、6~8月頃にかけて、本事業への参加企業を募集しています。県内に本社又は支社を有し、アセアン地域及びインドへ進出している又は今後の展開を検討している(現地法人や関連工場を有す

る、現地との取引があるなど）企業を対象としています。

②現地広報活動

参加企業が決まり次第、企業が希望する国での広報活動を開始します。現地の大学を訪問し、教育機関の職員や優秀な学生に直接、本事業への応募を促すことが目的です。2015年度には、タイ、ベトナム、インドネシア、2016年度にはインド、フィリピン、2017年度にはベトナム、ミャンマーへ訪問しました。

現地での学生向けの説明会には、奨学金に興味を持った他大学の学生が参加していたり、修了予定時間を超えても多くの学生から質問があったり、持参した富山県、企業、大学についてのパンフレットがあつという間に無くなったりと学生たちの関心は大変高い様子でした。



現地大学での事業紹介（ベトナム）

③留学生募集から選考

応募書類が集まり次第、県で精査のうえ、受入企業にて書類選考を実施します。同時に、県内大学へ留学生候補者の受入可否を確認します。選考面接では、企業への適性、本奨学金プログラムに対する意欲等を確認します。応募者は現地のトップクラスの大学出身者が多く、企業からは「優秀な人が多く、選ぶのが難しい。」との声上がるなど、好評を得ています。



面接の様子（タイ）



面接の様子（ベトナム）

④入学・入国手続き

留学生の決定後、大学への入学手続き、入国手続きを行います。手続きの流れは表のとおりです。

【入学・入国手続きの流れ】

1	県内大学へ入学願書等を提出する。
2	大学にて入学許可書が発行される。
3	入国管理局へ在留資格認定申請書を提出する。(審査は約1ヶ月)
4	入国管理局にて在留資格認定証明書が発行される。
5	在留資格認定証明書を留学生へ送付する。
6	留学生が現地の大使館または総領事館に査証申請をする。

入学願書の提出にあたっては、企業側の研究に対する要望を踏まえて、留学生と大学の担当指導教員により、研究内容を決定します。航空券や住居の手配等を含め、来日に関する手続きは、富山県と本事業の委託先である（公財）とやま国際センターにて行います。

⑤留学生活

来日後、企業担当者と大学の受入れ指導教員が、直接、研究内容等を話し合う機会を設けます。留学生は研究生としての半年間で、日本語を学びながら、修士課程に向けて準備をします。大学院入試に合格後、修士課程で2年間、専門分野の研究に励んでもらいます。



第2期生の大学院入学報告



第1期生の大学院修了式（富山県立大学）



第1期生の大学院修了式（富山大学）



県では、生活面での悩み相談や健康チェックを兼ねて、大学院入学後は月1回ミーティングを実施しています。来日して間もない研究生の間は日本語レベルや入試対策の確認を兼ねて週1回実施し、ささいな問題でもすぐに相談してもらい、留学生との信頼関係を築きます。安心して暮らすことがで

き、留学生生活がよりよいものになるよう最大限の支援をしています。

受入企業にはインターンシップの実施や留学生とのコミュニケーションを依頼しています。実際には、会社の行事への参加や定期的に連絡を取る、ミーティングをするなど、内容については、企業によって異なります。

また、(公財)とやま国際センターでは、留学生に生活支援だけでなく、富山の魅力を伝えるため、観光地の見学や国際交流行事への参加を促しています。

⑥就職

就職試験の実施の有無、試験内容については、各企業に一任しています。

また、在学中の在留資格は「留学」ですが、就職にあたり就労関係の資格に変更しなければなりません。現行の在留資格のうち、本事業のアセアン留学生に最も合致する資格は「技術・人文知識・国際業務」となります。場合によっては、高度専門職の資格を取得できる可能性もあります。就職に関する在留資格変更手続きについては、各企業にて行いますが、県でも状況確認を行っています。

資格の変更時、教育機関での専攻内容と職務内容が関連していなければ資格の認定が難しくなっていますが、本事業では、専攻分野を把握したうえでの採用となるため、在留資格の申請手続きが比較的容易になります。

(3) 事業の実績

2015年に来日した第1期生5名は、2016年4月から県内の大学院に入学し、2018年4月に全員が支援を受けた企業へ就職しています。富山県で働く上で、必要となる日本語についても、大学院在学時に日本語能力試験の最上級であるN1（幅広い場面で使われる日本語を理解することができる）を取得するまで上達した留学生もいます。

現在、2017年に来日した第2期生4名が県内大学院1年目に在籍しており、第3期生が研究生として9月から11月にかけて来日を予定しています。なお、第4期生についても参加企業を募集していません（9月20日締切）。

企業名	東亜薬品(株)	朝日印刷(株)	中越興業(株)	日医工(株)	黒田化学(株)
出身	インドネシア (ジャカルタ)	インドネシア (スラバヤ)	インドネシア (スマラン)	タイ (バンコク)	ベトナム (ハノイ)
受入大学院 (H28.4~ H30.3)	富山大学大学院 医学薬学教育部 博士前期課程 薬科学	富山大学大学院 理工学教育部 修士課程 〔工学領域〕	富山県立大学 大学院 工学研究科 (博士前期課程)	富山大学大学院 医学薬学教育部 博士前期課程 薬科学	富山大学大学院 理工学教育部 修士課程 〔工学領域〕

第1期アセアン留学生受入れ状況（2018年4月～支援企業に就職）

企業名	(株)小矢部精機	川端鐵工(株)	ダイト(株)	ファーマパック(株)
出身	タイ (バンコク)	フィリピン (マニラ)	インド (AP州)	フィリピン (セブ)
受入大学院 (H30.4~)	富山大学大学院 理工学教育部 修士課程 〔工学領域〕	富山大学大学院 理工学教育部 修士課程 〔工学領域〕	富山大学大学院 医学薬学教育部 博士前期課程 薬科学	富山大学大学院 医学薬学教育部 博士前期課程 薬科学

第2期アセアン及びインド留学生受入れ状況（現在、大学院1年目）

企業名	大高建設(株)	(株)新日本コンサル タント	タカノギケン(株)	日東メディック (株)	北電情報システ ムサービス(株)
出身	ミャンマー (マンダレー)	インドネシア (スラバヤ)	タイ (プレー)	ベトナム (ハノイ)	ベトナム (ハノイ)
受入大学院 (H30.10~)	富山県立大学 工学部	富山県立大学 工学部	富山大学 工学部	富山大学 薬学部	富山大学 工学部

第3期アセアン留学生受入れ状況（2018年9月下旬～来日）

(4) 第1期生の活躍

現在、第1期生5名は、大学院で学んだ知識など富山での留学生活での経験を活かし、それぞれの企業で働いています。働いて半年が経過しましたが、初めて外国人留学生を採用した企業からは、社内の雰囲気明るくなったと喜びの声が届いています。受入企業の方々から、「富山と自国の架け橋となってほしい」「お互いの発展に貢献してほしい」との意見が寄せられ、大きな期待を背負っています。これまで学んだ成果を発揮し、企業で活躍することが、県内企業への就職を志すアセアン地域等からの留学生の受入れ拡大につながり、本県の経済・地域の活性化に向け貢献してくれることを期待しています。

2018年9月3日（月）には「アセアン地域等からの外国人留学生受入・定着促進シンポジウム」を開催しました。アセアン地域からの人材確保に関する講演や第1期アセアン留学生、受入企業担当者、大学指導教員によるパネルディスカッションを実施しました。

第1期アセアン留学生は、本県の奨学金プログラムを選択したきっかけや本事業の魅力について、「日本は技術力が高く、大都市・地方のどこの大学でも高い水準の教育を受けられるところが魅力的で留学を決めた。」「富山県のプログラムでは学費だけでなく生活もサポートしてもらえるおかげで、全力で研究に取り組めた。研究生として来日した半年間で、日本語の学習や研究テーマを決める時間があるのもよいと思った。」と話してくれました。

受入企業担当者の方々からは、「面接や留学生が来日後の生活面でのフォローが丁寧でとてもよい事業である。応募から採用まで3年半かかるのは長いと思うが、留学生を採用する際の課題である日本語や運転免許、他の社員とのコミュニケーションの取り方について、2年半の留学生活でクリアして入

社してくる。入社時には、他の新卒の日本人よりも会社に馴染んでいる。」「本事業に応募する学生は学習意欲が高い優秀な学生が多い。県から毎月、留学生の学生生活や研究についての状況報告があり、事業に安心して取り組むことができた。」との高い評価をいただきました。大学指導教員の方々も「学習意欲が高く、アルバイトをする必要もないため、授業や研究を休まずに朝から晩まで熱心に取り組むことができる。来日直後は日本語でのコミュニケーションが大変だったが、日本語能力を高めるのも人材育成の一環と思い取り組んだ。」「当初は日本の習慣がわからず、また、日本での研究も初めてで戸惑いもあったと思うが、研究・日本語に対する学習意欲が高く、問題なく大学院を修了した。」と留学生や本事業を評価してくださいました。

4 アセアン地域等からの外国人留学生受入・定着促進事業以外の留学生獲得に向けた取り組み

2014年には、グローバル人材の育成や海外とのネットワーク作りにおいて貴重な人的資源となる外国人留学生の受入れ拡大の推進を目的にSNS（ソーシャルネットワークサービス）や動画投稿サイトによる情報発信に取り組みました。現在も留学生向け Facebook ページ「Toyama International Junction (<https://www.facebook.com/Toyama.Junction/>)」では、留学生向け行事の案内だけでなく、国際交流員や留学生により富山の魅力を紹介しています。2015年には、現地において本県への留学をPRすることが重要と考え、タイ・バンコクに留学コーディネーターを配置し、日本国大使館や日本学生支援機構などの関係機関と連携し、留学生の誘致活動を実施しました。



Facebook ページ「Toyama International Junction」

日本留学フェア（タイ）へのブース出展

また、外国人留学生が安心して勉学、研究に専念し、充実した意義ある留学生生活を過ごすことができるよう、財政的援助として「富山県国際交流奨学金」を支給し、医療費負担の軽減を図るため「富山県国民健康保険加入助成」を実施しています。

5 おわりに

本事業は、約3年半かけて実施する富山県独自の事業であり、産官学の連携なしでは成立しません。受入企業や大学にはご協力賜り大変感謝しています。アセアン地域の人々は、日本人と比べて情が薄

く、就職しても早く帰国するのではないかと懸念されることも多いですが、本事業の留学生は、県、受入企業、大学の3者から支援を受けた自覚と感謝の気持ちを持っています。こうしたことから、留学生と受入企業との間には強い信頼関係が構築され、留学生は就職して企業と自国の発展に貢献したいという強い意志を持つに至っています。今後も受入企業、県内大学との連携を強化し、本県の留学生受入れ拡大や定着促進のための取組みを進めていきます。